



鳥上分団

県下の消防団員の技術の向上と土気の高揚を図る、第五十四回鳥根県消防操法大会が八月一日、安来市中海ふれあい公園で開催されました。ポンプ車の部に十一チーム、小型ポンプの部に二十四チームが出場し、これまでの訓練の成果を發揮し、鍛えあげた消防技術を競いました。この大会に、奥出雲町消防団を代表して、ポンプ車の部に鳥高分団、小型ポンプの部

に鳥上分団が出場しました。両出場隊とも、七月十八日に開催された雲南地区大会の点数を上回る、素晴らしい操法を披露し、県下の出場隊が数点を争う激戦の中、鳥高分団が四位入賞、鳥上分団が十一位と健闘しました。鳥高分団 180・0点 (タイム第一線57秒、第二線67秒) 鳥上分団 187・0点 (タイム47秒)

## 奥出雲町消防団(鳥上分団)強豪相手に健闘

### 第54回鳥根県消防操法大会



鳥高分団

両出場隊の皆さんは、この大会に向けて、家族や地域の皆さんの支え、職場のご理解のもと、約半年間にわたる厳しい訓練を続けてこられました。選手、関係者の皆さんお疲れさまでした。

また、七月三十一日、安来市民会館で行なわれた、第六十二回鳥根県消防大会の席上において奥出雲町の三名・一

団体が表彰を受けました。おめでとうございました。 県知事表彰 功労章 団長 安部正教さん 表彰状 三成保育所幼年消防クラブ

消防協会長表彰 特別功績章 馬木分団長 舟木 長さん 鳥高分団長 萬田輝夫さん



入館150万人目の小松原さん(左から2人目)と、前後賞の2人

開館 10周年

## 亀高温泉 玉峰山荘 入館者150万人を突破

今年開館十周年を迎えた玉峰山荘の入館者が八月七日、百五十万人を突破しました。この日、正面玄関でセレモニーがあり、百五十万人目の入館者となった安来市伯太町の小松原純子さんに、井上町長から記念品が贈られました。玉峰山荘には、山陽方面をはじめ町内外から年間約十五万人の来館者があります。入館百五十万人目となった小松原さんには、井上町長から同山荘のペア宿泊券と、五

日に発売されたトロッコ列車をかたどった陶器ポトルの焼酎が記念品として贈られたほか、百五十万人目の前後二人には、前後賞として仁多米コシヒカリ五斗がプレゼントされました。小松原さんは、今回で三回目の来館となり、温泉でゆっくり日頃の疲れを癒そうと訪れたが、このようなおめでたいことに当たりとても嬉しい」と喜んでいました。



## 遠い宇宙を身近で体験 奥出雲多根自然博物館で企画展

「みんなでワクワク宇宙体験in奥出雲2010」と題した企画展が、八月五日から奥出雲多根自然博物館で始まりました。

初日となる同日には、オーピングセレモニーが行なわれ、井上町長、子ども代表として布勢小六年生の吉川和希さんら関係者五名によるテープカットを行い、この日訪れた地元の幼稚園児や小学生、親子連れ約五十人とともにオーピングを祝いました。

この企画展は、同博物館と(株)三城ホールディングスが主催し、全国で宇宙開発のPR



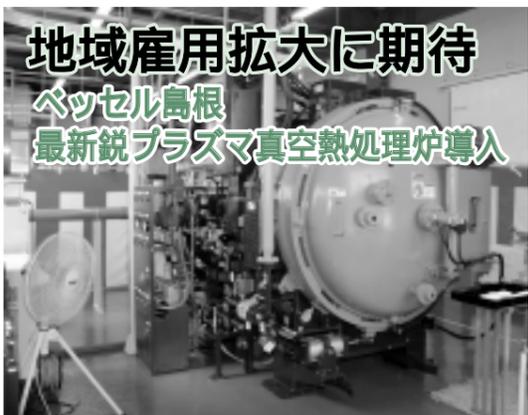
不思議そうに月の砂に触れる子どもたち

活動などを行なっている財団法人日本宇宙フォーラムの協力を得て実現したものです。会場では、宇宙飛行士の野口聡一さんが国際宇宙ステーション長期クルーとして活躍された記録を映像や写真パネル等で紹介するほか、本物の宇宙服や宇宙ロケットの模型、毛利衛・向井千秋両宇宙飛行士がフライト中に着用した衣類などが展示されています。

また、実際の宇宙探査のデータを基に作られた、月や火星の砂に実際に触れることができるコーナーでは、子どもたちが実際に砂を触りながら興味深げに見入っていました。

この日訪れた子どもたちは「月や火星の砂に触れたり、本物の宇宙服が見れてとても面白かった」と宇宙への関心を深めていました。この他に、実際の宇宙食に採用された製法で作られたレトルトカレーなど、宇宙に関連した商品も販売され来場者の興味をひいていました。

この企画展は九月五日まで開催されています。



## 地域雇用拡大に期待 ベッセル島根 最新鋭プラズマ真空熱処理炉導入

工具のドライバー先端部分(ビット)の製造で、国内トップシェアを誇るベッセル島根の横田工場に、「プラズマ浸炭」技術を利用した、最新鋭の真空熱処理炉が導入され、その火入れ式が、七月二十三日、同工場内で行なわれました。

この真空熱処理炉で行なう「プラズマ浸炭」技術は、県産業技術センターが二十年前に研究着手し、県産業創出プロジェクトとして開発に取り組んできたもので、金属材料の表面に炭素を浸透させ、表面は固く、内部に粘りを持たせることで、製品に優れた耐



期待を込め点火する田口社長(左)

久性を施すことができるものです。式典には、ベッセル島根田口二郎社長、島根県産業技術センター吉野勝美所長、井上町長など関係者二十四名が最新鋭設備の初稼働を祝福しました。田口社長は「このプラズマ炉の導入により、世の中にながれ製品を創り出し工場を再びフル稼働させる契機とした」と、社業を進展させることによる地域社会への貢献に邁進したい」と強い意気込みを述べられました。

この真空熱処理炉の導入により、ベッセル島根が活性化し、地域雇用の拡大につながることを期待されます。



野村監督(左)と井上町長

## 広島マツダスタジアムでふるさと自慢

広島地区情報発信事業の一環として、奥出雲観光協会が七月二日、マツダスタジアムの大型ビジョンで観光PRを行ないました。この事業はカープファンをはじめ、スタジアムを訪れた人たちに仁多米のおいしさをPRするとともに、広島からの誘客につながる目的で行なわれます。

大型ビジョンではトロッコ列車、仁多米などの三十秒間の映像にあわせ、来場者プレゼントとして抽選で二十名に仁多米をプレゼントしました。また、奥出雲からの発信一役目を記念し、井上町長が広島東洋カープの野村謙二郎監督にカープ特製バッタージの仁多米を贈呈しました。神話の里奥出雲のふるさと自慢として、今後このPRを今シーズン四回行う予定です。